

4月2日(木曜日)

【新改訳 2017】

ルカ20章1～21節・36節

20:1 ある日、イエスが宮で人々を教え、福音を宣べ伝えておられると、祭司長たちと律法学者たちが長老たちと一緒にやって来て、

20:2 イエスに言った。「何の権威によって、これらのことをしているのか、あなたにその権威を授けたのはだれなのか、教えてくださいませんか。」

きょうは受難週第三日目のことを覚えます。ふつう宮での論争の日として語られます。この一日は、主の生涯の中でも最も多くのことを語られた日だろうと思われれます。少し長い箇所ですが、ぜひ読んでください。

宮きよめは、一見乱暴にも見えましたが、それは聖なる神の名とその神殿を汚すことへの義憤の表れであったし、父なる神から与えられた権威によるきよめでした。後に、「いっさいの権威が与えられている」(マタイ 28・18 参照)とも語られまし

た。

多くのたとえを含めて、主は天国の奥義の一端を、また世の終わりのことなどを教えておられます。いろいろな終末論がある今日、私たちは真の権威者なる主の御教えに聞き従いましょう。

～祈り～

主よ。あなたは、世の終わりの時の様子を教えてくださいました。どうか、今日のいろいろな惑わしの多い終末論からキリスト者をお守りください。また、証させてください。